

## 4年間を通じた段階的・継続的看護倫理教育の展開 三重大学医学部看護学科における倫理教育の紹介

著者	今井 奈妙, 福録 恵子, 中西 唯公, 犬丸 杏里, 土田 幸子, 杉山 泰子
雑誌名	三重看護学誌
巻	16
号	1
ページ	61-65
発行年	2014-03-15
その他のタイトル	The actual impact of gradual and continuing ethical education in School of Nursing, Faculty of Medicine Mie University
URL	<a href="http://hdl.handle.net/10076/13835">http://hdl.handle.net/10076/13835</a>

# 4年間を通じた段階的・継続的看護倫理教育の展開

## — 三重大学医学部看護学科における倫理教育の紹介 —

今井 奈妙<sup>1)</sup>, 福録 恵子<sup>1)</sup>, 中西 唯公<sup>2)</sup>  
犬丸 杏里<sup>1)</sup>, 土田 幸子<sup>1)</sup>, 杉山 泰子<sup>1)</sup>

**The actual impact of gradual and continuing ethical education  
in School of Nursing, Faculty of Medicine Mie University**

**Nami IMAI, Keiko FUKUROKU, Yuko NAKANISHI,  
Anri INUMARU, Sachiko TSUCHIDA and Yasuko SUGIYAMA**

**Key Words:** ethical education, nursing ethics

### 1. はじめに

看護倫理が、看護基礎教育の充実に関する検討報告書（厚生労働省，2007）において充実すべき教育内容と明示されてから6年が経過しようとしている。大日向<sup>1)</sup>は、基礎教育上の看護倫理学の内容構成について検討する報告の中で、本邦の看護倫理教育における課題を指摘している。それらの課題とは、看護倫理の意味付けの曖昧さ、カリキュラム上の位置不定、科目構成の有機的関連性の欠如などである。

本学科では、平成21年度のカリキュラム改正時より、看護倫理に関する講義を、医療倫理Ⅰ（1単位，1年次後期）と医療倫理Ⅱ（1単位，4年次後期）に2分する形で開講している。さらに、臨地実習部会（教務委員会の下部組織）の中には、倫理教育の担当者が5名存在し、臨地実習が始まる前に倫理教育の時間を設けている。よって、4年間をかけて看護実践上の倫理能力を養うという教育システムになっている。

この倫理教育の構成には、①成人前期における看護学生の精神的な maturation capacity に添う教育を行う、②知識を習得する段階から分析・判断能力を養う段階に渡る ladder 教育を実践する、③看護学の特徴である臨地実習を活かした倫理教育を行う、という3つの背景があり、その向かうところには、「人の尊厳と生命を尊重する姿勢に基づき、対象者に対する倫理的配慮ができる」という本学科のディプロマポリシー

があると考え、本稿では、現在の本学科における看護倫理教育の実践内容を報告する。

### 2. 4年間に渡る看護倫理教育の概観

本学科における看護倫理教育の概観を図1に示す。教育のポイントとしては、1) 1年次の倫理講義と4年次の倫理講義をつなぐ倫理ノート作成、2) 臨地実習前の段階的倫理教育、3) 映画による情緒的刺激を取り入れた講義、の3点である。

#### 1) 1年次の倫理講義におけるオリジナル倫理ノート作成

医療倫理Ⅰと医療倫理Ⅱの各8回の講義の間には3年のインターバルが存在する。これは、学生のレディネスに相応しい看護倫理教育を行えるように設定されたものであるが、1年次後期に受けた1単位の講義内容を、4年生になった学生が鮮明に記憶しているとは想像し難い。そのため、平成23年度より、医療倫理Ⅰの講義を通して、学生に「オリジナル倫理ノート」の作成を課している（図2）。このノートには、講義中に筆記した内容や自宅学習課題の回答、基礎実習や領域別実習において遭遇した倫理的問題等を記載し、4年次後期に受講する医療倫理Ⅱの時間に活用できるようにと学生に指導している。

1) 三重大学医学部看護学科

2) 順天堂大学医療看護学部

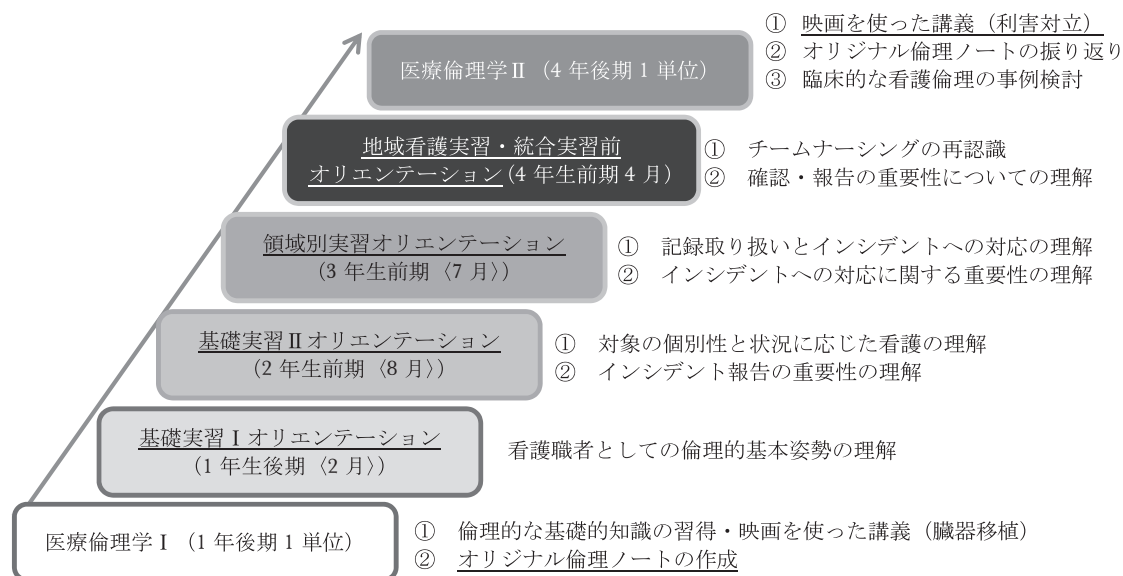


図１ 三重大学医学部看護学科における看護倫理教育の概観

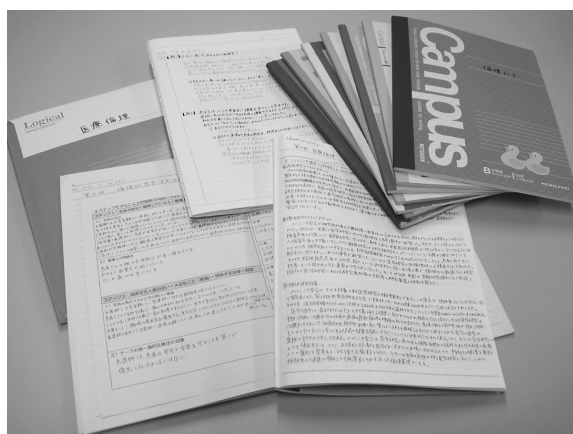


図２ 学生から提出された  
「オリジナル倫理ノート」の一部

## 2) 臨地実習前の段階的倫理教育

学生が、各臨地実習に挑む前のオリエンテーションでは、実習部会の倫理教育メンバーによって講義が行われる。この講義は学年別倫理教育計画（表１）に基づき、これまでの学びや臨地実習で必要とされる項目に焦点をあて、学年別実施される。学年毎の目標に照らし、看護の倫理綱領に基づいて、強調すべき内容を学生が十分に理解できるよう工夫している。

例えば、２年生の基礎看護学実習Ⅱでは、はじめて行う看護過程の展開や看護計画の実践に伴いインシデント発生率も高くなることが想定される。そこで、この時点での倫理教育では、安全な看護の提供の必要性に加えて、対象の個性を考慮し、状況に応じた看護が求められることや、インシデント報告の大切さを強調した教育が行われる。さらに、実習終了後には、学生が実習中に気づいた倫理的問題について自ら振り返

る機会を設け、全体共有を図っている。

３年生に対しては、長期の領域別実習をひかえた７月に、個人情報保護の観点から、記録等の取り扱いやインシデント発生時の対応、および、そこから予防策を学ぶことの重要性を伝える講義を行っている。講義の終了後には、１５分程度で回答可能な小テストを実施し、正答率の低い項目や誤った解答について倫理教育メンバー間で検討し、学生へのフィードバック内容を決定する。その内容は、領域別実習オリエンテーション時に学生全体へフィードバックし、倫理観の定着につながるよう正しい知識の理解を促している。さらに、表１に示した３年生の目標１）と２）が達成できるよう、領域別実習開始前に全体レベルの統一を図るために、理解の乏しい学生に対して個別指導を行っている。

教育内容においては、例えば、１年生と３年生では同じ看護師の守秘義務をテーマとする場合であっても、その深度に差をつけている。具体的には、基礎看護学実習Ⅰの前に行うオリエンテーション時に、教育メンバーが「学生が臨地実習で用いているメモ帳を紛失する」という状況を寸劇によって説明する。その後、１年生の学生がメモ帳を紛失しないための工夫を自ら考えることにより、実習中に関わる対象の個人情報を保護することの重要性を認識するようにしている。一方、領域別実習を行う前の学生に対しては、説明内容のレベルを上げ、前年度の領域別実習で実際に生じたインシデント事例のうち、個人情報保護に関する内容を取り挙げ、学生が起こしやすい特徴的な事例について具体的状況の説明を行う。その上で予防策を各学生が考え、倫理観に基づいた行動のあり方や重要性の意識付けができるように工夫している。

表1 学年別倫理教育計画

学年	時 期	目 標	主な内容（共通要項に沿った項目）	具体的な方法
1	基礎実習Ⅰの実習 オリエンテーション (1月)	1) 医療や看護の現場における倫理について考えることができる 2) 看護学生が実習するにあたって必要な倫理的配慮について理解することができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 倫理とは何か？⇒看護者として何が必要か？ <ul style="list-style-type: none"> <li>・対象の尊厳と人権の尊重</li> <li>・安全な看護の提供</li> </ul> </li> <li>■ 個人情報の保護（実習記録の取り扱い） <ul style="list-style-type: none"> <li>・報告の重要性：ヒヤリ・ハット（事故）防止</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 医療倫理Ⅰの講義で学んだ“倫理”をふまえて基本姿勢を理解させる。</li> <li>・実習要項にアンダーラインを引かせ、実習要項上の倫理的配慮を意識づけ。</li> <li>・実際の場面を想定し、実習記録の取り扱い（メモの取り方、記録の管理の仕方等）に関する注意を促す。</li> </ul>
2	基礎実習Ⅱの実習 オリエンテーション (8月)	1) 看護学生として倫理観に基づいた責任と行動をとることができる 2) 事故発生時には、適切な対処を行うことができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 対象の尊厳と人権の尊重</li> <li>■ 安全な看護の提供 <ul style="list-style-type: none"> <li>a ケア提供者としての責任の自覚</li> <li>b 知識・技術・態度・実践力を高める必要性</li> <li>c 説明と同意の必要性</li> </ul> </li> <li>■ 個人情報の保護（実習記録の取り扱い）</li> <li>■ 事故防止とその対策：ヒヤリ・ハット防止</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 基礎実習Ⅰにおける学生の情報を収集し、その内容を含め、対象の個性・状況に応じた看護が求められることを強調する。また、インシデント報告の大切さを伝える。</li> <li>・実習要項に沿って、倫理的配慮に関する内容の復習を促す。</li> <li>・実習中に事故なく看護を提供するためにはどのような準備や心構えが必要かを説明する。</li> <li>※ 実習終了後に振り返る機会を設け、学生の学びを深める。</li> <li>・オリエンテーションを受け、実際に実習して倫理面に配慮できたか、実習中に気づいた倫理的問題はなかったか？等</li> </ul>
3	領域別実習の実習 オリエンテーション (7月)	1) 対象を尊重し、倫理観に基づいた行動をとることができる 2) 事故および暴力等発生時には適切な対処を行い、分析した結果を今後に生かすことができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 対象の尊厳と人権の尊重</li> <li>■ 安全な看護の提供 <ul style="list-style-type: none"> <li>a ケア提供者としての責任の自覚</li> <li>b 知識・技術・態度・実践力を高める必要性</li> <li>c 説明と同意の必要性</li> </ul> </li> <li>■ 個人情報の保護（実習記録の取り扱い）</li> <li>■ 事故防止とその対策：ヒヤリ・ハット防止 <ul style="list-style-type: none"> <li>・暴力等の防止と発生時の対処</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 長期に渡る実習期間前であるため、中だるみや自己判断での行動が生じないように注意する。</li> <li>○ 記録等の取り扱いとインシデント時の対応、それから学ぶことの重要性を強調する。</li> <li>○ 基礎実習やその後の振り返りによる学び・体験を絡めて伝達する。</li> <li>・実習要項に沿って内容の確認を行う。</li> <li>・ヒヤリ・ハットや暴力の防止と発生した場合の対処の仕方についてフローチャートで説明する。</li> <li>・前年度の領域実習でヒヤリ・ハットを報告し注意喚起を行う。</li> <li>※ オリエンテーション後の学びの確認 オリエンテーションの内容から簡単なチェックテストを行い、理解が乏しい学生には再度理解できるよう説明する。</li> </ul>
4	地域看護学実習・ 統合実習前（4月）	1) 看護倫理および研究倫理に基づいた責任と行動をとることができる 2) 看護職としての職業倫理に基づいた態度をとることができる	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 看護者の倫理的責任と行動⇒確認と報告の重要性</li> <li>■ 対象の尊厳と人権の尊重 <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人情報の保護（実習記録の取り扱い）</li> <li>・ヒヤリ・ハット（事故）／暴力等の防止と対処</li> </ul> </li> <li>・研究倫理</li> <li>■ これまでの倫理教育内容の再確認：これまでに発生したヒヤリ・ハット（事故）および暴力等の内容と傾向の説明。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ チームでの仕事の意味を理解し、確認と報告が必要であることを強調する。</li> <li>・実習要項に沿って臨地実習における倫理的配慮の確認を行う。</li> <li>・領域実習で発生したヒヤリ・ハット及び暴力等の内容と傾向の説明を行う。</li> <li>・実習を振り返ることにより、どのような場面で倫理的配慮が必要と感じたか、それを今後どのように活用するかを考えさせる。</li> <li>・地域看護学実習は、健康な人も対象となるため、対象の尊厳と人権の尊重（説明と同意を含む）を再度、強調して伝える。</li> </ul>

三重大学医学部看護学科教務委員会臨地実習部会 H24 年度学年別倫理教育計画より抜粋

## 3) 映画による情緒的刺激を取り入れた講義

医療倫理Ⅰの講義内容は、まず、「天気がよい、あるいは悪いとは、誰にとってのことなのか？」という問いかけに始まる<sup>2)</sup>。初回では、道徳的問題の原型に迫り、学生の生活に密着した話題から倫理学とは何かを考えさせ、講義回数を追って、生命倫理、医療倫理、看護倫理へと絞り込む（表2）。

4 回目の講義における『Never Let Me Go（邦題：わたしを離さないで）』の上映は、知識教授を主とする講義の単調さを払拭する意味もある。この映画は、カズオ・イシグロのベストセラー小説が原作であり、他人に臓器を提供するために生まれてきた特別な存在（クローン）を育てる寄宿学校を舞台にした物語である。臓器提供という形で生命を終える若者達の切ないストーリーが学生の胸を打ち、映画が終わった直後、学生達は静まり返る。

看護倫理に関する基礎的知識の教育は、一方的な知識の教授にならないよう各講義中に小事例や課題を提示し、学生間で思考・相談した後に、その結論を「オリジナル倫理ノート」に記述するようにしている。学生は、映画を除く7回の講義において、総数21の課題に取り組んでいる。

医療倫理Ⅱにおいては、初回講義の際に、医療倫理Ⅰで修得した基本的知識を振り返る。この際、学生が3年前から作成してきた「オリジナル倫理ノート」を見直すことにより、自己の倫理的思考の発達を確認できる予定である。4年生後期という時期にある学生は、それまでの臨地実習を通して、「ヒヤリハット報告」や「守秘義務」等を倫理的概念として認識しているが、久しぶりに倫理学用語に触れることに戸惑いを見せる。そこで、学問的な倫理的思考過程を意識させる目的で、『八日目の蟬』を上映している。



表2 H24年度 医療倫理Ⅰの講義内容

講義回	月/日	講義内容	方法	備考
1	10/ 2	倫理学とは何か（ガイダンスを含む）	講義	履修申告確認
2	10/ 9	生命倫理学の概要	〃	演習あり（事例問題）
3	10/16	医療倫理学の概要	〃	〃
4	10/23	Never Let Me Go（私を離さないで）	映画鑑賞	講義時間延長（104分）
5	10/30	看護倫理の基本理論・倫理的概念	講義	演習あり（事例問題）
6	11/ 6	倫理的意思決定モデルと倫理的責任	〃	〃
7	11/13	看護倫理に基づくケアリング	〃	〃
8	11/20	看護倫理と法的問題（医療倫理Ⅰのまとめ）	〃	〃

三重大学医学部看護学科 H24 年度医療倫理Ⅰ学生配布資料より一部修正抜粋

『八日目の蟬』は、母性をテーマにした角田光代原作のベストセラー小説が原作である。読売新聞の夕刊に連載され、NHK 総合でテレビドラマ化、後に映画化された。不倫関係にあった男性の子を堕胎したことを契機に不妊症となった女性が、不倫相手の妻が出産した子を衝動的に誘拐し、逃亡しながら児を育てる物語である。逃亡期間中に、犯人と児の間に愛着が形成され、多くの観衆が逃亡を支持する気持ちになる。しかし、身勝手な犯行が無ければ、不幸にならずに済んだ一家族の姿も描かれている。

看護職は、自己の価値観に囚われることなく対象の価値基準や利害の理解を求められる。それを臨床経験の乏しい学生に実感できるように講義することは難しい。しかし、映画上映後の演習において、学生が登場人物の利害対立状況について話し合い、対象の利害を理解しつつ、社会的公正さも認識するトレーニングになっている。

3 回目からの講義では、倫理問題を含む臨床事例を 5～6 名の小グループで検討し、倫理問題解決モデルを用いて、臨床における倫理的ジレンマを解く訓練を行う。平成 24 年度に用いた事例は、多発骨転移による大腿骨置換術後、感染による下肢切断を余儀なくされたケース<sup>3)</sup>と先天性疾患をもつ子どもを妊娠した夫婦の子どもへの対応<sup>4)</sup>である。これらの事例を考えるに当たっては、倫理問題解決モデル<sup>5), 6)</sup>を使用し、倫理問題解決の過程を論理的に説明できる能力を養っている。

### 3. おわりに

臨地実習指導のために臨床を訪れた際、様々な看護実践上の倫理問題が看護師によって語られていることに気づく。例えば、医師と看護師の価値観の違いから生じるジレンマや、患者の権利の主張と病院（組織）

のルールの狭間に立たされることのジレンマ等、関係性の間に置かれる看護職ならでの悩みは尽きない。それらは、倫理的には興味深い現象であったとしても、多忙な看護業務の中では「対応に困る厄介な出来事」以外の何でもない。臨床看護師をやるせない思いに至らせる小さな倫理的ジレンマの積み重ねは、看護という職業を継続する意思にまで影響を与えているようにも見受けられる。これらは、本邦において、看護倫理の教育方法が確立されてこなかったための現象とも捉えることができる。

本稿では、三重大学医学部看護学科における 4 年間を通した看護倫理教育の実態を報告した。看護学生に対する倫理教育では、段階的且つ継続的な教育体制が必要であると考えている。低学年の多くの学生達は、看護倫理教育の受講を通して、医療倫理の面白さを実感している様子がうかがえることから、今後さらに創意工夫を重ね、これらの教育効果を測定し評価することが必要であると自覚している。

看護における行為のひとつひとつは、看護倫理を抜きにして行えるものではなく、看護が看護倫理そのものであるとされる所以である。やがて臨床で倫理的ジレンマに対峙せねばなくなる学生達が、学問的思考を通して職業的能力を向上させる看護師になって欲しいと願っている。感情的思考から倫理的問題解決思考へと視点をシフトできる能力を養うことは、職業人としての基準を上げることによって看護の質を向上させるだけでなく、看護の離職問題にも貢献するであろうと期待したい。

### <文 献>

- 1) 大日向輝美, 稲葉佳江: 看護基礎教育における授業科目「看護倫理」の内容構成に関する検討, 北海道大学大学院教育学研究院紀要 108, 61-70, 2009.

- 2) 永井均：倫理とは何か 猫のアインジヒトの挑戦，産業図書，11-19，2004.
- 3) 淵本雅昭，神田直樹：カンファレンスで根付かせる看護倫理 現場導入の仕方，日総研，82-87，2012.
- 4) 同掲書 3) 112-117.
- 5) 小西恵美子：倫理的意思決定のステップと事例検討，看護倫理学，南江堂，119-128，2011.
- 6) 松木光子：倫理的意思決定モデル，看護倫理学，ヌーヴェルヒロカワ，103-120，2010.

キーワード：倫理教育，看護倫理